

令和6年度 利府町民会議 議事録

開催日時:令和7年3月19日(水) 午後6時30分～午後8時30分

場 所:文化交流センター「リフノス」

テ ー マ:「利府町のまちづくりについて ～人口5万人を目指すために～」

参 加 者:24人

【ワークショップ】「利府町のまちづくりについて ～人口5万人を目指すために～」

ワークショップでは<教育><防災><都市開発・地域産業・観光><公共交通>の4つのグループに分かれて意見交換を行いました。令和3年3月に掲げた「市制移行」の実現に向けて、どのようなまちづくりをしていくべきか、意見が共有されました。

<教育グループ>

普段思うこと		
いい点	改善点	気になる点
・自然に親しむ山、海 ・利府高校の海洋研究(わかめ、ふぐ) ・幼、小対象のタッチプール、生き物ふれあい	・海洋学習を幼時から幅広く行う ・利府町のことを知る機会を増やす ・歴史の伝え方を話のみではなく、体験として知れるように ・歴史、伝統を伝えていくべき ・地域の人々の生きる先生のような存在がいらない ・田植え体験など自然との関わりが必要 ・自然体験の施設や人材を確保 ・地域で子どもを育てる地域コミュニティの発展	・後継者不足(農業等)

5万人を目指すために

・利府には海山があるため資源を活用して子どもたちの体験活動を増やす
→利府を知る→好きになる→発信する→地域を巻き込む人材活用、開発だけではなく住んでいる人のことも考えるべき→課題は後継者不足、行政からの情報発信→これらを改善

<防災グループ>

普段思うこと		
いい点	改善点	気になる点
・防災マップが各家庭にある ・防災マップが発行されている ・防災マップに令和元年の浸水地区が表示されている ・傾斜地対策が計画的になされている(ex:しらかし台北側斜面の防草シート) ・水害防災の国交省の観測点がある	・町民の理解促進を図るべき ・若い層には防災マップなどの情報が行き届いていない印象 ・行政、関係者、住民による協働活動がみられない ・総合防災訓練が低レベルなので質的向上が必要 ・消防団の団員確保努力が不十分 ・利府町の救急体制不足 ・河川簡易カメラが使用できないところが一箇所ある ・防災拠点のない地区がある	・町で防災マップを配布して仕事完了になっていないか ・発行された防災マップは改善されているのか ・地震が発生したら住民はどうすればいいのか ・毎年訓練していても活かされているのか ・住民より危険な場所ではないかと連絡が入ったら調べに来てくれるのか ・なぜ人口5万人を目指すのか、これまで情報分析、課題を調査研究してきたのか

5万人を目指すために

交通

- ・交通の便をよくする

子育て

- ・児童館の有効活用で子育て支援
- ・給付金・税制優遇

福祉

- ・福祉関連手続きを一箇所でする
- ・福祉拠点の創設で住民の満足度を向上

その他

- ・利便性の高い場所の宅地開発を進める
- ・生きづらさのない町づくり
- ・魅力があれば自然と増える
- ・祭りでにぎわう町づくり

<都市開発・地域産業・観光グループ>

普段思うこと		
いい点	改善点	気になる点
都市環境 ・グランディ 21 がある ・気候が良い ・商業施設の充実 ・衣食住が完結する 自然 ・梨が有名 交通(電車) ・JR の路線が2つ通っている 交通(車) 車によるアクセスが良好 ・高速交通網がある その他 ・災害が少ない	開発 ・バランスの取れた開発 ・しらかし台工業団地の拡充 観光 ・観光の目玉となるものの決め手がない ・関係人口(イオン、グランディ 21 等)は多いものの定住に結び付いていない 交通 ・交通の利便性が良くない ・公共交通が届いていない ・電車、バスの数が少なすぎる その他 ・メインとなる場所がない ・具体的な目標がない ・歴史を残す取り組みが足りていない	自然 ・人だけでなく動植物の生存を考えてほしい ・自然が失われつつある 開発 ・次世代を考慮した開発ができていないのか ・地下水を考えていない開発 ・土地区画整理に依存 観光・産業 ・地域産業といえるものがない ・観光資源が中途半端 ・リフノスより東に店が少ない 施策 ・人口5万人の具体策が見えない ・行政の動き、アピールが見えない ・歴史を大事にしない

5万人を目指すために		
自然環境 ・残すべき自然 ・開発の乱発	都市開発 ・生活しやすくなった ・交通のパンク ・無機質な街並み ・自然との共存 ・メリハリある都市開発 ・住環境の公共整備	人を呼び込む ・賃貸住宅(公共) ・民間活力の導入 ・良好な生活環境 ・災害が少ない ↓ 定着

<公共交通グループ>

普段思うこと		
いい点	改善点	気になる点
・仙台まで直通で行ける JR ・様々な交通手段がある ・mobi のシステム	・りふつとの時間間隔を 1 時間にしてほしい ・mobi を岩切駅にもまわしてほしい ・バスの始発が遅く、最終が早い ・公共交通の便が悪すぎる ・利府駅の便数が少ない ・グランディから駅まで歩いている人も多い ・東部地区は道路が狭い	・花園にりふつとが通らない ・西高東低である ・宮交路線は維持されているか ・バス運転手の意識が低い ・mobi の利用率 ・町の MaaS を導入するのは ・デジ田を活用した交通事業の創出

5万人を目指すために
・一方通行を増やす ・mobi の拡大 ・利府駅の発着便 up ・主要施設への専用道路の整備 ・町民のニーズを捉えた交通 ・交通網と隣接したマンション建設 ・住民だけでなく町外から来る人のニーズを知る

【町長総評】

それぞれのグループでテーマに沿った話し合いをしていただき、誠にありがとうございました。地方創生をどのように活用していくかということ、そして国で掲げる「楽しい地方」をつくっていくためにどうするか。皆さんの話を聞いていて、3点、思ったことがあります。

1点目は「利府らしさ」は何か、ということ。2点目は、防災グループから出た意見の、より良いまちづくりをしていくことで、その結果、人口が増えていけばいい。本当にそのとおりだと思います。3点目は逆転の発想が必要だと思いました。

1点目の「利府らしさ」。今日は様々な世代が参加しているので、それぞれが思う、利府の風景が違ふなと感じました。私にとっての利府の風景はムービックスがあった利府です。ペアガーデンが出来てジャスコ(現イオンモール新利府)もあって、開発が進み、次は何ができるんだろうと、ワクワクするような感じです。先ほど、蛍がいる、いた、という話も出ましたが、自然豊かなところを活かせるらいいなと思いました。海や山だったりという、それぞれの風景があると思いますので、合わせて活かしたら、とてもいい町になっていくんじゃないかと思って聞かせていただきました。「利府らしさ」として、私も挑戦していることがあります。歴史ある十符の菅薦の復元や、梨を使ったカレー、焼肉のたれを出したり、利府は宿場町だったので、馬に起因したスポーツ流鏑馬とか、歴史を振り返りながら「利府らしさ」をどういう風につくっていくのか、四苦八苦しながら、まちづくりをしているなと思います。当時、利府の青年団が駅伝を走っていたということが、皆さんの思い出になっているという話を聞きました。では、その駅伝を復活させたら、どういう風になるのか。例えば、町内の学校対抗で駅伝をやったら、みんなの思い出になるんじゃないかなと。楽しい、ワクワクする町になるんじゃないかなと。そういう昔に培ってきたものを現代にアレンジしてまちづくりに活かせるらいいなと思います。

2点目の人口について、利府がいい町だってなったら、仲間に声かけていきたいですね。利府に来なよとか、面白いよとか。伝えたくるような町がいいなと。皆さんの仲間を増やすっていうことをどういう風にしていくか、これが肝要かと。仲間づくりが必要な理由は、この先、人口が減少していくことは間違いない状態で、いろんな組織が解散となっていく。先人たちが続けてきたことが続けられなくなっていく。よりよい町づくりをしていき、人口が増えていけば、悲しい思いをすることも無くなるのではと思います。

3点目については、人々がネガティブに思うことを楽しめれるような、逆転の発想が大事かと思います。利府の駅がもっと電車の本数が増えればと、常々言われています。そういう弱点に思うようなことをポジティブに変えられるような発想ができたらいいなと考えております。

本日は皆さんから多くのヒントとなる意見をいただきました。この意見を町政に反映させていくことによって、皆さんの仲間が増えていき、皆さんの力で、皆さんの手で、町が盛り上がっていったんだという流れができれば、とてもいいことだと思っています。それが最高のまちづくりだと思います。本日はたくさんの意見をいただきありがとうございました。